

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 本野 雄一郎

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	1 世界的文化財や地域文化財の保存と継承
----	----------------------

施策の目的  
静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。その一方、その価値が明らかにされていないものも多く潜在しています。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これらすべてが欠かせない「文化財」であり、確実に未来へ引き継ぐことが求められます。そのために行政、所有者、市民などがその価値を共有し、保存と継承に取り組める体制の構築及び意識の醸成を図ります。

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由
	令和3年度	—	理由
	令和4年度	—	理由

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	494人	484人	97.9%	a	
成果指標	民俗文化財保存団体の構成人数	494人	2	494人	493人	99.8%	a	文化財保存に直接関わる人数が増え後継者が育成できる状態を測る指標として、民俗文化財保存団体の構成人数を指標とした。減少傾向にある民族文化財保存団体の後継者を育成することで現状値を維持することを目標とする。
			3	494人	—	—	—	
			4	494人	—	—	—	
			1	114人	122人	107%	s	
	文化財保護事業に携わる市民ボランティアの人数	101人	2	126人	133人	105%	s	市民と歴史的価値を共有できた指標として捉えられるため指標とした。前年度の文化財サポーター入門講座受講者の6割程度が、次年度の文化財サポーターとして登録すると想定した。 【参考】 文化財サポーター入門講座募集定員：20人
			3	138人	—	—	—	
			4	150人	—	—	—	
			1					
指標以外の成果			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
文化財サポーター育成	①文化財サポーター入門講座の実施（全5回） ②文化財サポーターの活動機会の提供（5件）	2	1	434	0	39	0.5	0.0	0.0	○
			2	368	0	11	0.5	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
神部神社浅間神社本殿ほか15棟建造物の保存修理事業 （静岡浅間神社社殿建造物保存修理事業）	①重要文化財建造物静岡浅間神社社殿群の修繕に対する助成	1	1	25,700	0	21,000	1.0	0.0	0.0	○
			2	29,400	0	29,400	1.0	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
久能山東照宮本殿・石の間・拝殿ほか13棟建造物防災施設事業 （久能山東照宮文化財保存修理事業）	①国宝及び重要文化財建造物久能山東照宮社殿群の防災設備修繕に対する助成	1	1	30,000	0	30,000	2.0	0.0	0.0	○
			2	13,358	0	13,358	2.0	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
史跡片山廃寺跡保存整備事業	①地下を把握するための発掘調査を実施（1件/年） ②発掘調査の成果及び史跡整備の方向を整備委員会に報告（1回/年） ③史跡指定地の保存活用のための公有地化の実施（R2年288㎡）	1	1	923	0	576	1.5	0.0	0.0	○
			2	111,220	0	110,517	1.5	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
史跡小島陣屋跡保存整備事業	①発掘調査の実施（92㎡） ②御殿書院移築復原基本設計の実施（R1） ③史跡整備基本設計の実施（R2） ④整備委員会の開催（2回/年） ⑤整備予定地（便益施設）の公有地化調査	1	1	15,922	0	7,776	1.5	0.0	0.0	○
			2	19,666	0	11,867	1.5	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	文化財保存団体構成員や文化財保護活動に参加する世代の高齢化が進んでいる。次世代の文化財保護を担う人材の育成や参加を進め、文化財の保存継承と活用を図っていく必要がある。	文化財保存整備事業が文化財の価値を広く知ってもらう機会と捉え、修理現場や発掘調査現場の公開などにより市民等とその価値に触れる機会を提供し、文化財の保護や維持管理、活用を担う体制を構築していく。
令和2年度	新型コロナウイルスの影響により、新たに入門した文化財サポーターの育成機会を確保することが難しい。また、新規サポーターは高齢者が多いためオンライン講座も開催が困難である。このようなコロナ禍のなかで新規の文化財サポーターや既存の文化財サポーターをどのように育成していくかを検討する必要がある。	高齢の新規文化財サポーターに対しては講座を分散化して開催するなど、開催方法を創意工夫し、コロナ禍における育成の継続を図る。また、既存の文化財サポーターにおいては、開催が限られた文化財事業を最大限活用して、活動の機会を提供するよう取り組んでいく。
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 本野 雄一郎

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	2 世界的文化財や地域文化財の活用
----	-------------------

施策の目的	静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これら「文化財」の価値を正しく理解した上で、地域の貴重な資源として活用していくことが求められます。そのために文化財の価値を広く発信し、文化財の公開活用による意識の醸成や地域の活性化につながる体制の構築を図ります。
-------	---

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由
	令和3年度	—	理由
	令和4年度	—	理由

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	8件	12件	150.0%	s	
成果指標	国指定文化財等でのユニークベニユーの開催件数	7件	2	9件	18件	200.0%	s	歴史的価値が全国的にも高いと認められる国指定文化財等をユニークベニユーで（副次的に）活用する件数を指標とした。 平成30年度実績を基準とし、毎年度1件ずつ開催件数を増やすことを目標とした。
			3	10件	—	—	—	
			4	11件	—	—	—	
			1	24日	20日	83.3%	c	
	文化財公開事業の開催日数	22日	2	26日	20日	77%	c	本市を特徴づける文化財の活用として地域と連携した公開や伝統行事の実施があるが、経済的効果を高めるためにも開催日数を指標とした。 平成30年度実績を基準とし、毎年度2日ずつ開催日数を増やすことを目標とした。
			3	28日	—	—	—	
			4	30日	—	—	—	
			1					
指標以外の成果			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
三保松原保全再生事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松原保全研修の開催</li> <li>・三保松原保全漫画冊子発行（令和3年3月）</li> <li>・リスク軽減事業（マツを病気から守る事業、倒木を防ぐ事業等）</li> <li>・松原再生事業（マツの植樹事業等）</li> <li>・マツの母樹園及び苗畑の整備のための用地買収（9筆）</li> </ul>	1	1	245,559	0	230,943	3.0	0.5	0.0	○
			2	198,124	0	163,475	2.5	0.5	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
駿府九十六ヶ町町名碑設置事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町名碑設置（4基）</li> <li>②町名由来プレート設置（15枚）</li> </ul>	2	1	2,970	0	2,649	0.2	0.0	0.0	○
			2	2,970	0	2,768	0.2	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	市内に存在する文化財の価値や魅力が広く知られておらず、所有者と連携した積極的な情報発信、公開活用が必要である。	文化財の保存活動やイベント等をSNS等を活用して積極的にPRを行うことで、文化財の価値や魅力を情報発信していく。文化財としての価値を保存しながら、ユニークベニューやイベント等の開催により文化財を活用した地域の活性化、観光資源につながる体制を構築していく。
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、不特定多数が集まる大規模な保全活動が開催されていないため、既存のグループや個人での保全活動参加を促し、リピートしてもらえる仕組みづくりをする必要がある。</li> <li>・市内には多数の文化財があるが、保存や管理の観点などからも、それらが全て公開されているわけではない。こうした文化財について、その存在や価値について広く知ってもらうためのPRや公開活用が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや保全活動をSNSで発信するだけでなく、三保松原での保全事業の成果のウェブサイト公開や講演会のオンライン配信などで、より深く継続して三保松原の保全に関わる市民を増やしていく。</li> <li>・文化財特別公開事業について、新たに保存修理を行う際に、助成の段階から文化財の所有者に事業を周知し、公開する文化財の拡充を図る。</li> </ul>
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	3 徳川家康公、今川義元公を活かした歴史文化の発信
----	---------------------------

施策の目的	3次総に掲げる歴史文化のまちづくりの実現に向け、徳川家康公をはじめとする地域の歴史資源を掘り起こし、磨き上げ、市内外に広く発信して市民の誇りの醸成と集客を図ります。 具体的には、歴史文化のまちづくりの核施設として今後開館を目指す歴史文化施設の整備事業に重点的に取り組むほか、駿府城跡天守台発掘調査現場を見える化することにより歴史学習の場や観光資源として活用することや、平成27年の徳川家康公顕彰四百年記念事業を400+プロジェクトとして継承することによって、地域の歴史文化への関心喚起を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	観光交流文化局 歴史文化課
	氏名	課長 中川 将巳

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏をテーマとした歴史文化施設のプレ展示や、今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の報告会などにより、今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は15万人を超える来場者があり、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の実施・完了、今川義元公銅像PR・小学校へのマンガ本配布など今川義元公生誕500年祭推進委員会との連携により今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は来場者は約6万8千人とコロナ禍の影響で前年度比で減少したものの、ブログや出前講座等を通じた積極的な情報発信も行うことにより、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠	
			1	70.0%	64.1%	91.6%	b		
成果指標	歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合	62.6% (平成30年度)	2	71.2%	61.8%	86.8%	b	市民アンケートにおける「歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について、平成26年度の63.8%を基準として、令和4年度73.8%（10年で10%増）を目標として設定している。目標値に比べ実績値が低いが、前年度に比べ1.5ポイント上昇したことや、今後、歴史文化施設や駿府城跡天守台野外展示の整備が進んでいくことから、令和4年度の目標値は変更しない。	
			3	72.4%	—	—	—		
			4	73.8%	—	—	—		
			1	—	—	—	—		
	徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思ふ市民の割合	83.4% (平成30年度)	2	—	—	—	—		市民アンケートにおける「徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思ふ」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について、平成30年度83.4%を基準とし、令和4年度88.8%の達成を目標としている。
			3	—	—	—	—		
			4	88.8%	—	—	—		
			1	—	—	—	—		
	今川義元公を郷土の偉人として誇りに思ふ市民の割合	63.3% (平成30年度)	2	—	—	—	—		市民アンケートにおける「今川義元公を郷土の偉人として誇りに思ふ」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について、平成30年度63.3%を基準とし、令和4年度72.0%の達成を目標としている。
			3	—	—	—	—		
			4	72.0%	—	—	—		
			なし	なし	なし	なし	なし		

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
歴史文化施設建設事業	①歴史文化施設の建設・展示設計及び工事 ②歴史文化施設の展示資料収集・調査 ③建設予定地の発掘調査・資料整理（～R2年度）	1	1	483,700	148,660	325,582	7.5	1.5	0.0	○
			2	574,483	279,900	363,623	7.5	1.5		
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	①常設見学ゾーン・発掘情報館「きゃっしる」での速報展示 ②現場見学会、講演会実施	2	1	19,384	—	15,256	3.0	2.0	0.0	○
			2	11,244	—	8,449	3.0	2.0		
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
歴史文化施設プレ事業	①歴史文化施設基本展示につながるテーマ展示の実施 ②歴史観光ガイドランスの試行 ③今川氏顕彰事業の実施	3	1	6,560	—	6,193	0.5	0.5	0.0	○
			2	5,219	—	4,770	0.5	0.5		
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
歴史文化推進事業	①徳川みらい学会と連携した講演会等の実施 ②民間団体や関連自治体と連携した情報発信	4	1	2,768	—	2,479	1.5	1.0	0.0	○
			2	2,428	—	2,120	1.5	1.0		
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	なし
令和2年度	なし	なし
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—